

## 〈資料紹介〉

---

### 織田ステノのイコペッカ

奥 田 統 己

目次	解題
	本文
	注
	参考文献

#### 解題

ここで紹介するのは、1989年8月30日に静内町のシャクシャイン記念館で開催された「エカシ・フチと語る会」において、静内町の織田ステノさん（1901～1993）がアイヌ語で語った若いころの思い出話である。

「エカシ・フチと語る会」は、当時の横路孝弘北海道知事がアイヌのお年寄りからじかに話を伺うことを目的として、このとき一度だけ開催された。会の冒頭で横路は次のように開催の目的を述べている。

皆様方と今日は「アイヌ民族の文化」ということとお話を申し上げたいと思いますが、文化に限らず、いろんな範囲のエカシ・フチの皆さん方のお話をお伺いしたいと思って、今日はやって参りました。

会に招かれたエカシ・フチは次の12名である（発言順、氏名・年齢は当時の記録による）。松永タケ（77）上田とし（76）芦沢定市（73）野本亀雄（72）新井田セイノ（72）鍋沢強巳（71）小田イト（78）小田喜代作（81）葛野辰次郎（79）高田勝利（84）織田ステ（87）去間ユミ（93）。その他の参加者として記録されているのは、北海道ウタリ協会から当時の野村義一理事長、貝沢正副理事長、秋田春蔵副理事長、そして北海道から当時の横路孝弘知事、鈴木弘泰生活福祉部長、橋内哲也日高支庁長であった。織田さんを含む数名のかたがすでに逝去されている。ご冥福をお祈りする。

上に述べたようなこの集まりの目的もあって、織田さんを除く発言者はほとんど日本語で発言している。そしてそれぞれのご発言は、以下に整理するような本資料の意義のうちとくにc近代（あるいは現代）アイヌ史の史料としての意義を、やはり十分に持っている。にも関わらず本稿で織田

さんの発言だけを紹介するのは、以下に述べる ab の点でこの発言が他の発言と性格を異にすること、そしてこの集まりの全容を紹介するには筆者の力量がまだ足りないこと、の2つの理由からである。なお近現代アイヌ史の資料として見る場合に限らず、一般にアイヌ語での発言が日本語での発言よりも価値を持つということとはできない。

主催者であった北海道生活福祉部はこの会の全容を録音し、直後に織田さんの発言の文字化を筆者に依頼した。筆者はこれに応じて、不明な点を織田さん本人に確認のうえ、文字化し報告した。本稿はその報告をもととし、その後の知見によって本文を修正したりえ解題を付したものである。聞き取りや訳になお疑問の残る箇所には？を付している。

この録音は現在当センターに保管されている。

本稿の資料的意義として、ここで以下の3点を指摘する。

#### a アイヌ語の資料としての意義

ここで織田さんは、若いころの自分自身を基本的に1人称単数で指示している。現在公開されている織田さんのアイヌ語の資料は、ほとんどが4人称による口頭文芸テキストである。1人称を基本とする量的にまとまったテキストとして知られているのは、この方言では他に織田(1992、志賀雪湖解題)をあげるにとどまる。これに対して本文中には1人称単数だけでなく、1人称複数、2人称単数、2人称複数などの人称接辞がさまざまな文脈で用いられている。そしていわゆる包括的1人称複数と除外的1人称複数の使い分けをわかりやすいかたちで確認することができる。

またとくに注目されるのは、4人称主格と1人称複数目的格の複合した人称接辞とみられるウンチunciが本文中に3例現れることである。unciは織田さんの語った口頭文芸テキストのなかでは現在のところ確認されていない。しかしたとえば、浅井(1969)田村(1970)らによる石狩方言の記述のなかには、浅井(1969)によれば一人称対立複数の受身の形として、田村(1970)によれば不定人称または2人称敬称の主格と除外的1人称複数の目的格とが接合した形として、unciが記述されている。筆者が確認した際には、織田さんはこのunciという形式をご自分が発話したこと自体認めず、したがって意味も教えて下さらなかった。上に述べた「4人称主格と1人称複数目的格の複合した人称接辞」という分析は本資料中の例の文脈と石狩方言の情報とに基づき筆者が推定したものである。また織田さんの伝える「ハトの鳴き声の聞きなし」のなかにはエンチ・ヤックenci-yak-yakuという表現がみられるが、本人はこの部分に「ひどくぶったたかれた」という訳を与えている。これらの形式の共時的・通時的分析は今後の課題である。

#### b アイヌ口頭文芸の資料としての意義

本文中で、織田さんはこの発言をイコペナカikopepkaであるとしたうえで「小さいときの苦勞」と説明している。織田さんはこのikopepkaというアイヌ語を、自分の体験談あるいは先祖から聞かされた体験談を指して用いることがあった。たとえば1989年12月29日には次のように述べている。

ikopepkaは自分生れたときからのあったこと、辛かったこと、喜んだことというのがikopepka

筆者はこの集まりのあと、織田さんにこのikopepkaを改めて語ってもらうよう依頼し、そのとき「最初から」という条件をつけた。すると織田さんは自分の曾祖母の体験談を4人称で語り始めた（その内容は織田（1989・1991、若月亨、藤村久和訳註）による日本語の体験談と重なっている）。このことから筆者が推定するのは、織田さんが本稿の内容を、さかのぼれる限りの先祖の体験談に始まり本人の苦勞話に至るまでの一連のikopepkaのうちの一部として、意識していたのだということである。

そのほか、静内町教育委員会（1993）所収の「ユカ<sub>5</sub>」、同（1994）所収の「ユカ<sub>11</sub>」、同（1995）所収の「カムイユカ<sub>1</sub>」「カムイユカ<sub>12</sub>」のそれぞれ結末部分には、自叙者がそれまでのできごとを物語ることを指す動詞としてikopepkaまたはその他動詞形コベッカkopepkaが現れている。また同委員会所蔵の録音によれば、同（1995）所収の「カムイユカ<sub>11</sub>」を語り終えた直後に織田さんは次のように述べている。

イコベッカikopepkaにこの婦蟹（現在の静内町川合）にもやっぱりメノコmenoko（女）一人悪いために婦蟹のコタンkotan（集落）、昔はアイヌ コタンaynu kotanであったやつしっかり、婦蟹にはルッネスマルヤンベ コラチ ホラオチウエrupne suma ruyanpe koraci horaociwe（大きな石が雨のように降る）してチセcise（家）でもアイヌaynuでもオピッタopitta（皆）テヤテワteyatek wa（潰れて？）アンロンノワイサムan=ronno wa isam（殺されてしまう）したんだってフチhuci（祖母）あた言って、

また道で人に会ったときのアイヌ語での挨拶について筆者が伺ったとき、織田さんは若いころ使いに使われたときの思い出を語り、そのなかで次のようにikopepkaという動詞を用いている（1989年6月8日録音）。

チセ オッタ ホシッパアンマ タッネカネ ネ ルウェ ネ アリ クイコベッカ  
cise or ta hosippa=an wa tapne kane ne ruwe ne ari ku=ikopepka  
「家に私が帰って『このようでした』と私がikopepkaする」

なお織田さんはやはり1989年12月29日にikopepkaという語とupaskumaまたはucaskumaという語との関連について触れ、幼いころ同じような言葉だと思っていたが、祖母や伯母がその言葉を使うのを禁止していた、としている。upaskumaについて知里（1948、p. 315）は「祖宗の遺訓」「云い伝え」「古諺」などの意味に用いられるとしており、以上にまとめた織田さんのikopepkaの用法にも知里の整理と重なる部分がある。upaskuma、ucaskumaあるいはucaskomaなどとされる一群の話がアイヌ口頭文芸としてどのような性質を持つのかにはなお不明の点が多く、本稿はそうした点についても示唆を与えるものである。

c 近代アイヌ史の資料としての意義

本人が述べているとおり、織田さんのこの発言は「小さいときの苦勞話」である。古原 (1991、p. 1) によれば織田さんの生年は1901年 (明治34年) であり、だいたい学齡期から十数歳ごろの思い出だとすると、本稿は明治末から大正にかけてのアイヌの生活史についての一つの証言だということになる。

古原 (1991、p. 1ff) によれば織田さんは幼いころ両親と死別し、その後母方の祖母ソレウテさんのもとで育てられた。本稿で語られている祖母と暮らしていたころの思い出のなかには、たとえば大風で家が倒れそうになったときの対処のしかたや植物性食品の採集・処理のしかたなど、いわゆる「伝統的アイヌ文化」と呼ばれるものの当時行われた事例を読みとることができる。ただしこうしたことが当時のアイヌ家庭のなかでどの程度一般に行われていたかを明らかにするには、さらに資料が必要である。

いっぽうで、同世代のいとこたち (本文中ではユポ「兄」というアイヌ語で指している) が学校に通っていたことも織田さんは語っている。織田さんが学校に通わされなかったことについては、織田 (1989、pp. 208—209) をはじめとするいくつかの文献で紹介されており、その理由もさまざまに説明されている。ここでは、祖母がその理由を織田さんに説明している箇所から、祖母の学校に対する意識が織田さんの記憶のなかでどのように形づくられているのかを、読みとることができる。なお静内町史編さん委員会 (編) (1975) によれば当時織田さんが住んでいた静内町農屋地区にもっとも近かった学校は市父尋常小学校 (のちの御園小学校) であり、また10kmほど離れた遠仏には、小川 (1997) によれば1907年に北海道旧土人保護法に基づく学校が設立されている。織田さんのいとこたちが実際どこの学校に通ったのかは現在確認できていない。

今一つ重要なのは、実際には時間の関係で中断させられているものの、叔父さんの手伝いをして馬に耕作機械を引かせて畑を耕した思い出を、祖母との生活のなかでのいわゆる伝統的なアイヌ文化の記憶に引き続いて、織田さんが語ろうとしていることである。アイヌのエカシ・フチが多数招かれて北海道知事がそれぞれのお話を聞くという席であえてアイヌ語で語るときに、語るべき自らの人生として織田さんが何を意識していたのか、がそこに現れていると筆者は考える。

モニターとして本稿を読み、多くの誤りの指摘や改善点の示唆を下された先生がたにお礼申し上げます。

## 本文

オンネ フチ クネワ

onne huci ku=ne wa

トノ イタッ クエアイカヲ ルウェ ネ

tono itak ku=eaykap ruwe ne

アコロ イタッ で クイタッチク

a=kor itak で ku=itak cik

ニシパウタラ スヤン

nispa utar nu yan

私は年を取ったお婆さんで

日本語はできません。

私たちの言葉で話すから

旦那さんがた聞いてください。

クアニアナッ ハボカ オラウキ

kuani anak hapo ka orawki

ミチカ オラウキヲ クネワ

mici ka orawki p ku=ne wa

ネコン ハボ アン ルウェ ネ

nekon hapo an ruwe ne

ミチカ ネコン アン ルウェ ネ

mici ka nekon an ruwe ne

クエランペウテッ

ku=erampewtek

オンネ フチ オンネ エカシ ウンレス

onne huci onne ekasi e... un=resu

クマタキ トウラ トウン チネワ

ku=mataki tura tun ci=ne wa

クアニアナッ フチ クトゥマム

kuani anak huci ku=tumam

クマタキアナッ エカシ トゥマムマ ホッケ

ku=mataki anak ekasi tumam wa hotke

ネコン ハボ ミチ イキテッ エネ

nekon hapo mici iki tek ene

オンネ フチ オンネ エカシウタラ

onne huci onne ekasi utar

私は母も亡くし

父も亡くしたものでありまして

母がどうしていたか

父がどうしていたか

わかりません。

年老いた祖母と年老いた祖父が私たちを育てて<sup>1)</sup>

妹と一緒に2人で

私は祖母を抱いて

妹は祖父を抱いて寝ていました。

母と父はどうなったか、こうして

祖母と祖父とは

ホッケアッコノノ ウヤイコヌムヌムカネ	
hotke=as konno uyaykonumnumu kane	私たちが寝ると抱合いながら
ホッケアッ	
hotke=as	寝ていました。
オンネ エカシ… オンネ エカシアナッ	
onne ekasi … onne ekasi anak	祖父は
クマタキ	
ku=mataki	妹を
『『エカシエヌ』アリ イェヤン	
””ekasienu” ari ye yan	『『爺さん子』』と言いなさい
ホトゥイエカルヤン	
hotuyekar yan	そう呼びなさい
キヤンネッアナッ 『フチエヌ』アリ	
kiyanne p anak hucienu ari	年上のは『婆さん子』と <sup>2)</sup>
ホトゥイエカルヤン	
hotuyekar yan”	呼びなさい
アリ ハウアッ	
ari haw’ as	と言って
「フチエヌ！」アリ ハウアッコノノ	
”hucienu !” ari haw’ as konno	「婆さん子！」と言われると
「ホ！」アリ クホセ	
”ho !” ari ku=hose	「はい！」と私は返事をして
クマタキカ ネコラチ ホセ	
ku=mataki ka ne koraci hose	妹もそのように返事をしていました。
タネ ヤイラムアン マッカチ クネワ	
tane yayramuan matkaci ku=ne wa	もう物心ついた女の子に私になり
アエンウイテッ エアッカイ オウンノ	
a=en=uytek easkay ounno	用足しもできるようになってからは
『『フチエヌ』』アリ パテッ イェアカナッ	
””hucienu” ari patek ye akanak ?	『『婆さん子』』とばかり言っていると
レヘ オイラナンコンナ	
rehe oyra nankor na	名前を忘れるだろうぞ。
イレヘ アリ テウンノ 『フチエヌ』アリ	
irehe ari te unno ”hucienu” ari	あだなでは、これからは『婆さん子』とは

イテッケ ハウキヤン」  
 itekke hawki yan”  
 アリ ポナチャボ イルッカ  
 ari pon acapo iruska  
 「ステノ！」アリ ハウアシケカ  
 ”suteno !” ari haw’ as hikeka  
 クエランベウテッ  
 ku=erampewtek  
 「フチエヌ」アリ アエンホトゥイエカラ  
 ”hucienu” ari a=en=hotuyekar  
 ポナチャボ エンコサカヨカラ  
 pon acapo en=kosakayokar  
 「ネックス エホセ ソモ キ  
 ”nep kus e=hose somo ki  
 エレへ『ステノ』アリ エレへ アンナ  
 e=rehe ”suteno” ari e=rehe an na  
 『ステノ』アリ ハウアシチッ ホセ」  
 ”suteno” ari haw’ as cik hose”  
 やあ クイオイラランケ  
 やあ ku=ioyra ranke  
 「ステノ！」アリ ハウアシケカ  
 ”suteno !” ari haw’ as hikeka  
 エノン ホトゥイバアン ハウエ ネヤカ  
 enon hotuypa=an hawe ne ya ka  
 クエランベウテッコンノ  
 ku=erampewtek konno  
 ポナチャボ エンコサカヨカラ  
 pon acapo en=kosakayokar  
 カネ アン スクッ チキカネ オカアッ  
 kane an sukup ci=ki kane oka=as  
 ラポッタ オンネ エカシ  
 rapok ta onne ekasi  
 オンネワ イサム  
 onne wa isam

言っではいけないよ  
 と叔父が怒りました。<sup>3)</sup>  
 「ステノ！」と言われても  
 私はわからなくて  
 『婆さん子』と呼ばれて  
 叔父に怒られました。  
 「どうして返事をしない  
 お前には『ステノ』と言う名前があるのだ  
 『ステノ』と言われたら返事をしろ」  
 やあ忘れては  
 「ステノ！」と言われても  
 どこへ呼ばわっているのか  
 私がわからずにいると  
 叔父に怒られる。  
 そうして私が育っている  
 うちに祖父は年を取って  
 死んでしまいました。

ミシム トゥラ

mismu tura

淋しく思いながら

フチ トゥラ クマタキ トゥラ

huci tura ku=mataki tura

祖母と妹と一緒に

レン チネワ ボロ チセ オッタ オカアン

ren ci=ne wa poro cise or ta oka=as

3人で大きな家に住んでいました。

ヘンパッパ クアンマヘタッ

hempak pa ku=an wa hetap

何年暮らしてでしたか

レラ ユッケ パ…サッケシ

rera yupke pa … sakkes

風の強い年…秋

タネ イチャアン…

tane ica=an …

もう刈り取りが終わり…

イチャオケレアンテッであったか

icaokere=an tek であったか

刈り取りが終ってであったか

ユッケ レラ アニネ

yupke rera an hine

大風があって

「チセ カムイ テエタ エカシウタッ

”cise kamuy teeta ekasi utar

「家の神様は昔のお祖父さんたちが

アシ チセ ネクス タネ ペワン

asi cise ne kus tane pewan

建てた家だからもう弱い

チキリヒ ペワン ルウェ ネ」

cikirihi pewan ruwe ne”

足が弱っている。」

アリ フチ ハウキカネ

ari huci hawki kane

と祖母は言いながら

レラ シユブコンノ エアットゥコンナ

re… rera siyupu konno eattukonna

風が強く吹くと何とまあ

シントスイェアン コラチ

sintasuye=an koraci

ゆりかごを揺らすように

ボロ チセ カムイ シスイェ シスイェ

poro cise kamuy sisuye sisuye

大きな家の神様がゆらゆら揺れました。

タネ シロヌマンアクス

tane sironuman akus

もう夕方になると

フチ ニス アフンケ

huci nisu ahunke

祖母は白を家に入れて



カヲカヲセカイネ アフンケヒネ

karkarseka hine ahunke hine

イテメニ オロワ ラッチャ…

itemeni or wa ratcik…

ニス ホッケレイネ

nisu hotkere hine

「ヘタッ タネ シロヌマンナ

"hetak tane sironuman na

ニス エサマノ ホッケヤン」

nisu esamano hotke yan"

アリ ハウアッ

ari haw' as

クマタキ トオニワ ホッケ

ku=mataki toon hi wa hotke

クアニ アペ コパッワ クホッケ

kuani ape kopak wa ku=hotke

ニス オイカ アリ ウテッキンマアッ

nisu oika ari utekkisma=as

フチ アベ ウイナワ イサム

huci ape uyna wa isam

エアットゥコンナ チセ オッケ シクンネ

eattukonna cise oske sirkunne

フチ エクシコンナ ポロ リミムセコンノ

huci ekuskonna poro rimimse konno

「ヘムカ フチ ヘムカ」

"hemka huci hemka"

アリ ハウキアッ チッアッコンノ

ari hawki=as cis=as konno

「イテッケ ハウ… アブンノ モコルワ

"itekke haw… apunno mokor wa

イテッケ ホブンパヤン

itekke hopunpa yan

アリ ホッケワ オカヤン

ari hotke wa oka yan

転がして入れて

梁からぶら下げ…

臼を寝かして

「さあ早くもう夕方になったよ

臼と並んで寝なさい」

と言って

妹はそこへ寝て

私は火のほうへ寝て

臼ごしにこうやって手を握りあいました。

祖母は火を消してしまい

何とまあ家の中は暗くなりました。

祖母がとつぜん危急の叫びをあげると

「大変だ、お婆ちゃん大変だ」

と私たちが言って泣くと

「声を出さず…静かに寝ていて

決して起きるな、

そのまま寝ていなさい。

チセ カムイ トゥムコルワ

cise kamuy tumkor wa

ヤヨトッイマアシナ」

yayotuymaasi na”

アリ アン ベ フチ イェカネ

ari an pe huci ye kane

チッアツカネ オカアサク

cis=as kane oka=as akus

ヘンバラ ネヤ エクッコンナ

hempara ne ya ekuskonna

ジックッネアンペ ヤッコサンバ

sirkusneanpe yaskosanpa

フチ エアラ リミムセパテッネテッ

huci ear rimimse pateknetek

ハウエヘカ イッ…

hawehe ka is…

「フチ ヘムカ フチ」

”huci hemka huci”

エアットゥコンナ レラ ユッケヤッカ

eattukonna rera yupke yakka

ロルンブヤラ イトムンブヤラ カリ

rorunpuyar itomunpuyar kari

シッペケレ エソン シッペケレ

sirpeker eson sirpeker

チヌカラ ベ ネアッ

ci=nukar pe ne a p

エノン インカラアッヤッカ

enon inkar=as yakka si… e…

エアットゥコンナ シクンネ

eattukonna sirkunne

チッアッ

cis=as

「フチ ヘムカ フチ ヘム…」

”huci hemka huci hem…”

家の神様が力を込めて

足を遠く踏ん張っているよ。」

ということを祖母が言いながら

私たちは泣いていると

いつだか急に

ものすごい音がして

祖母が一度危急の叫びをあげたとたん

声もしなく…

「お婆ちゃん大変だ、お婆ちゃん」

なんとまあ風が強くても

横座の窓、左座の窓から

明るいの、外が明るいの

見えていたのに

どこを見ても

なんとまあ真っ暗でした。

私たちは泣いて

「おばあちゃん、大変だ、おばあちゃん…」

アクス フチ

akus ? huci

「イテッケ ホブンパヤン

"itekke hopunpa yan

イテッケ ホブンパヤン

itekke hopunpa yan

アリ ニス カムイ トゥラ

ari nisu kamuy tura

ホッケワ オカヤン

hotke wa oka yan

へムカ チセ カムイ ハチッワ

hemka cise kamuy hacir wa

チョコボケタ オカアン ルウェ ネナ」

corpoke ta oka=an ruwe ne na"

アリ フチ ハウキ

ari huci hawki

「へムカ フチ へムカ」

"hemka huci hemka"

「ボナチャポウタラ アチャポウタラ

"pon acapo utar acapo utar

ウソイタ おる…おるのに

usoyta おる…おるのに

ネコン ネ ルウェタ アン」

nekon ne ruwe ta an"

アリ クハウキカネ クチン

ari ku=hawki kane ku=cis

クマタキ トゥラ チッアッ

ku=mataki tura cis=as

ネコン ネ ハウエ ホペラワ ホパンワ

nekon ne hawe hopera wa hopasi wa

「フチ エシクヌワ

"huci e=siknu wa

エチオカ ルウェエンタ アナ

eci=oka ruwe enta an a

すると祖母は

「起きてはいけないよ

起きてはいけないよ

そのまま白の神様と一緒に

寝ていなさい。

大変だ、家の神様が倒れて

その下に私たちはいるのだよ」

と祖母は言いました。

「大変だ、おばあちゃん大変だ」

「叔父さんたち、伯父さんたちは

隣りどうしいる…いるのに

どうしたのだろうか」

と私は言いながら泣き

妹と一緒に泣きました。

どうしたのか川上から川下から

「婆ちゃん、あんたは生きて

いるのかい、

ホ オホホーイ」

ho ohohoy”

アリ アチャポウタラ ハウキカネ

ari acapo utar hawki kane

ホペラ ホバシ ウエカルバ

hopera hopasi uekarpa

チセ… チセ キタイ

cise … cise kitay

ノコ アリ アントゥイェイネ

noko ari an=tuye hine

サクマ アネプニプニアクス

sakma an=epunipuni akus

チセ オシケ

cise oske sir…

エアットゥコンナ チセ バケ

eattukonna cise pake ?

オアフンタイェワ

oahuntaye wa

アン ルウェ ネハウアン

an ruwe ne haw'an

ニス アンラチッケカ イクッペ

nisu an=racitkeka ikuspe

シネイクッペ ケライボ ロシ…

sine ikuspe keraypo ros…

アッワ アン クッケライボ

as wa an kuskeraypo

シクヌアシ ルウェ ネハウアン

siknu=as ruwe ne haw'an

「エチシクヌワ エチオカ ルウェエンタ

"eci=siknu wa eci=oka ruwe enta

ネコン ネ ルウェタ アン」

nekon ne ruwe ta an”

アリ ウナルペウタラ ホペラ ホバシ

ari unarpe utar hopera hopasi

ホ、オホホーイ」

と叔父たちはいいながら

川上から川下から集まってきました。

家…家の屋根が

鋸で切られて

屋根の横木が持ち上げられると

家の中は

なんとまあ家の頭が

べったりと落っこちて

いるのです。

白をぶら下げた柱

1つの柱だけが立って…

立っていたおかげで

私たちは助かったのです。

「生きているのかい

どうなったのかい」

と伯母たちも川上から川下から

ウコハウタツパレカネ ウエカルバ	
ukohawtaspare kane uekarpa	声を交わしながら集まってきます。
アチャボウタラ ネチセ キタイ	
acapo utar ne cise kitay	叔父たちはその家の屋根を
チャリイネ オロワ	
cari hine or wa	ばらしてそこから
チセ オルン テレケイネ	
cise or un terke hine	家のなかに飛び込んで
ウンチプニイネ エソン ウンチサンケ	
unci=puni hine eson unci=sanke	私たちを引き上げて外に出しました。
ネコン イキアッワ ネイタ レウシアッワ	
nekon iki=as wa ney ta rewsu=as wa	私たちはどうしてどこに泊って
オカアッ ルウェ ネヤカ クオイラコロカ	
oka=as ruwe ne ya ka ku=oyra korka	いたのか忘れてしまいましたけれど
ヘンパツトカ オカアッコンノ	
hempak to ka oka=as konno	何日かそうしていると
「チセ アネアシッカラ ルウェ ネ」	
"cise an=easirkar ruwe ne"	「家を新しく作ったぞ」
アリ ハウアッ	
ari haw'as	と言われました。
フチ トッラ ウンチトッライネ	
huci tura unci=tura hine	祖母と一緒に私たちは一緒に
オッタ オカアッ チセコホラッアッ ウンウン	
or ta oka=as cisekohorak=as usi un	もともとそこにいて家と一緒に潰れた場所に
ポオン チセネ アンカライネ	
?? pon cise ne an=kar hine	小さな家にして建てられて
イタンチカ アン まあ	
itancika an まあ	板敷になっていて、まあ
イタンチカ アン ルウェ	
itancika an ruwe	板敷であるのが
クエヤイコブンテッ	
ku=eyaykopuntek	嬉しくて
クリムセリムセコンノ	
ku=rimsrimse konno	踊り跳ねると

ポナチャボ

pon acapo

「テウンノ イタ ビリバヤンマ

"te unno ita pirpa yan wa

ヘリアッ

heriat

エチクリヒカ アンヌカクニネ

eci=kurihi ka an=nukar kunine

アリキキワ イタ ビリバヤン」

arikiki wa ita pirpa yan"

アリ ハウキカネ ほんとに

ari hawki kane ほんとに

ノカンアッ…アンヤッカ

nokan=as … an yakka ??

エアットゥコンノアン…

eattukonnoan …

オンネ フチ パッノアナッ キカナイワ

onne huci pakno anak kikanay wa

キムペカ オマナンマ ウサラタッケッ

kim peka omanan usa wa rataskep

ウサピットゥ ウサンケレベキナ

usa pittok usa sikerpekina

ウサブクサ

usa pukusa

アエ ラタッケッ エヤイコユッテッワ

a=e rataskep eyaykoyuptek wa

サッサトゥワ サラニッオピ カラ

satsatu wa saranip'opi kar

トゥレッ タワ

turep ta wa

トゥレッ オッケ エヤイモナサッコンノ

turep otke eyaymonasap konno

チフンバ トゥレッカ カラワ

hu… cihunpa turep ka kar wa

叔父が

「これからは板を拭いて

輝いて

お前たちの姿も見えるように

頑張って板を拭きなさい」

といってほんとうに

私たちは幼くても

何とまあ…

祖母はそのころまでは元気で

山を歩き回って山菜を

オオハナウドやらヒメザゼンソウやら

ギョウジャニンニクやら

食べる山菜に精を出して

乾かしてサラニッに入れたものを作り

オオウバユリを掘って

搗くのに手が足りなくなると

切り干しのオオウバユリも作って

マサシントコオビ カ  
 masasintokoopi kar  
 オロワ ニセウ エウモマレワ  
 or wa nisew eumomare wa  
 ニセウ ポロ ス アリ チレワ  
 nisew poro su ari cire wa  
 イサツケキ カエン リキンテワ  
 isatkeki ka en ? rikinte wa  
 サッコオンノ  
 sat koonno  
 シントコ オッケ オハレコンノ  
 sintoko oske ohare konno ?  
 タッ でも クエラムアン  
 tap でも ? ku=eramuan  
 タア パッコ アン シントコ シッコ  
 taa pakno an sintoko sik no  
 ニセウ サカンケ アイサカンケッ  
 nisew sakanke an=sakanke p  
 フチ エヤム  
 huci eyam  
 ミッポ インネッ フチ ネクッ  
 mitpo inne p huci ne kus  
 ユボウタラ クウタリウタラ  
 yupo utar ku=utari utar  
 がっこう オルン パイエカ  
 がっこう or un payeka  
 シニコノ ウエカルパコンノ  
 sini konno uekarpa konno  
 フチ アリ テケヘ アリ  
 huci ari tekehe ari  
 ネニセウ ニセワ  
 ne nisew nise wa  
 ミッポホウタラ オビッタ ユボ ウタラカ  
 mitpoho utar opitta yupo utar ka

木の樽に入れたものを作りました。

それからどんぐりを集めて

どんぐりは大きな鍋で茹でて

物干しの簾の上に上げて

乾くと

シントコの中に空けると、

今でも覚えています、

これくらいあるシントコ一杯に

どんぐりを茹で干しにしたのを

祖母はしまっていました。

祖母は孫の沢山いる人でしたので

兄たち、私の親戚たちは

学校に通っていて

休みになると集まれば

祖母はこうやって手で

そのどんぐりをすくって

孫たちはみんな兄たちも

アコレコンノ ウツロ オマレ	
a=kore konno upsoro omare	もらうと懐に入れ
チオカカ フチ ニセウ ウンコレコンノ	
cioka ka huci nisew un=kore konno	私たちも祖母がどんぐりをくれると
アリ ウツロ オッケ クオマレ	
ari upsor oske ku=omare	そのまま懐に入れました。
ネアンペ カプ アカルワ	
nean pe kapu a=kar wa	その皮を剥いて
テエタアナッ ニセウ ケライ チエワ	
teeta anak nisew keray ci=e wa	昔はどんぐりばかり食べて
スクァアシ	
sukup=as	私たちは育ちました。
タッ あめんだま カワリ	
tap あめんだま kawari	こんな飴玉の代わりに
フチ ニセウ ウンエレワ	
huci nisew un=ere wa	祖母はどんぐりを私たちに食べさせて
ポロアシ ルウェ ネハウアン	
poro=as ruwe ne haw'an	私たちは大きくなったのです。
タネ クヤイラムアンワ	
tane ku=yayramuan wa	もう私は物心ついて
フチ クカスイワ	
huci ku=kasuy wa	祖母を助けて
トゥレツカ クタ オハウコツカ クカラ	
turep ka ku=ta ohawkop ka ku=kar	オオウバユリも掘りお汁の実も取りました。
トイタアンコンノ トンカ アリ クトイタ	
toyta=an konno tonka ari ku=toyta	耕すときは私は唐鍬で耕し
フチアナッ シキ アリ トイタ	
huci anak siki ari toyta	祖母は鋤で耕しました。
ウカスイアッ フチ クカスイ	
ukasuy=as huci kusak… ku=kasuy	私たちは助けあって、祖母を私は助けました。
「アリキキ アリキキ	
"arikiki arikiki	「頑張れ頑張れ
トオ ハボ ミチ コロ ウタァアナッ	
too hapo mici kor utar anak	あそこの母も父もいる人たちは



がっこう オルン	
がっこう or un	学校へ
トノ カンピ アネパカシヌクス	
tono kampi an=epakasnu kus	和人の勉強を教わりに
バイエカ	
payeka	通っている、
エチオカアナッ ソモ カッコ オルン	
ecioka anak somo kakko or un	お前たちは学校へ
エチバイエカ クシキ ルウェ ネナ	
eci=payeka kuski ruwe ne na	いかないだろうよ、
ハボカ ミチカ エチエランペウテックス	
hapo ka mici ka eci=erampewtek kus	お前たちは母も父も知らないので
カッコ オルン エチバイエカカ ソモ キ」	
kakko or un eci=payeka ka somo ki”	学校に行かないのだ」
アリ アン ベ フチ イエカネ	
ari an pe huci ye kane	と祖母は言いながら
エイソコロ	
eisokor	それを本当にして…
クエイソコロカネ スクアアン	
ku=eisokor kane sukup=an	私はそれを本当だと思いながら育ちました。
タネ クバハ じゅう…し クネ	
tane ku=paha じゅう…し ku=ne	もう私は14歳になりまして
トオ パハタ ケム アン	
too paha ta kem an	その年に飢饉がありました。
シリスム トウナン	
sirsum tunas	霜がおりるのが早く
アマムカ シネ ヌムカ アエ エアイカッ	
amam ka sine num ka a=e eaykap	穀物も一粒も食べられない
ニコロ マメカ モイレノ アエトイタ	
nikor mame ka moyre no a=etoyta	手豆も、遅く植えた
マメカ スムマ オケレワ	
mame ka sum wa okere wa	豆も干からびてしまって
エアットウコンノアン アエツカ イサム	
eattukonnoan a=e p ka isam	なんとまあ食べるものがなくなりました。

スム アマム フチ	
sum amam huci cawaci…	干からびた穀物を祖母が
ヌヤヌヤヤッカ	
nuyanuya yakka	こすっても
オウセ ムル コラチ トゥルセワ イサム	
ouse mur koraci turse wa isam	ただ糠のように落ちてしまう
「ネコン イキアンマ シクヌアンクスタ」	
"nekon iki=an wa siknu=an kus ta"	「どうやって生きろというのか」
アリ アン ベ フチ イェカネ チッカネ	
ari an pe huci ye kane cis kane	と祖母は言いながら泣きながら
スクッアッ ウン…	
sukup=as un… ?	私たちは育ちました。
マタ アン オウンノ	
mata an ounno	冬になってからは
ウサオントゥレッ フチ カラワ	
usa ontuprep huci kar wa	発酵させたウバユリなどを祖母は作って
オントゥレッ サヨ カルワ	
ontuprep sayo kar wa	発酵させたウバユリのお粥を作って
チエ	
ci=e	私たちは食べました。
ウトゥルタ ビットク ラタシケッ カルワ	
uturu ta pittok rataskep kar wa	ときにはオオハナウドのラタシケッを作って
チエ	
ci=e	食べました。
ウトゥルタ シケレペキナ ポロ ス アリ	
uturu ta sikepepekina poro su ari	ときにはヒメザゼンソウを大きな鍋で
スケワ	
suke wa	料理して
ユボ ウタラ ウエカルパコンノ	
yupo utar uekarpa konno	兄たちが集まると
「オンカミヤンワ	
"onkami yan wa	オンカミをして
カムイ ラタシケッ エヤン」	
kamuy rataskep e yan"	神様のラタシケッを食べなさい」

アリ オンネ フチ ハウキッ ネクッ

ari onne huci hawki p ne kus

ユボ ウタラ オンカミランケ イベ

yupo utar onkami ranke ipe

「チオカアナッ『ヒンナ ヒンナ』アリ

"cioka anak "hinna hinna" ari

カンナ カンナ ヤイカタヌアンマ

kanna kanna yaykatanu=an wa

カムイ ラタッケッ アエッ ネナ」

kamuy rataskep a=e p ne na"

アリ アン ベ オンネ フチ イェカネ

ari an pe onne huci ye kane

スタッアッ

sukup=as

「イテッケ イオイラノ ネッ アコロヤッカ

"itekke ioyra no nep a=kor yakka

ラタッケッ ピットッ ラタッケッ

rataskep pittok rataskep

ウサトゥレッ ウサピットッ

usa turep usa pittok

アネヤイコブンテッワ アエ ソモ キヤクン

an=eyaykopuntek wa a=e somo ki yakun

サッ アンコンノ

sak an konno

トッスイ レスイ アイサッケワ

tu suy re suy an=satke wa

アピッカエヤムコンノ スイ

a=pirkaeyam konno suy

タア コラチ ケム アンコンノ

taa koraci kem an konno

アエ エアッカイ シッヌアン ベ ネナ」

a=e easkay siknu=an pe ne na"

アリ アン ベ フチ イェカネ

ari an pe huci ye kane

と祖母が言うので

兄たちはオンカミをしては食べました。

「私たちは『ヒンナヒンナ』と

何度もかしこまって

神様のラタッケッを食べるのですよ」

と祖母はいいながら

私たちは育ちました。

「決して忘れずに何を持っていても

ラタッケッ、オオハナウドのラタッケッ、

オオウバユリやオオハナウドは

喜んで食べないと、

夏になると

何度も乾かして

大事にしまえばまた

このように飢饉があるとき

食べられて私たちは生きるのだよ」

と祖母は言いながら

ウオヤイキンネ

uoyaykinne

「イテッケ トランネヤン

"itekke toranne yan

トランネアンコンノ アイシトマッ ネ

toranne=an konno an=sitoma p ne

スンケアンヤッカ アイシトマッ ネ

sunke=an yakka an=sitoma p ne

ネッカ アネコウウエペケンヌチッ

nep ka an=e=kouwepekennu cik

エエラムアン ペ ネヤクン

e=eramuan pe ne yakun

エイエナンコロ

e=ye nankor

エエラムッカレツアナッ

e=eramuskare p anak

エトモチンネ イテッケ エイエナンコロ」

etomocinne itekke e=ye nankor"

アリ ボナチャボカ

ari pon acapo ka

オンネ フチカ イェカネ

onne huci ka ye kane

アエンレス

a=en=resu

タネ ボナチャボ

tane pon acapo

オッカイ ヤトイ コルワ

okkay yatoy kor wa

トイタカネ アン

toyta kane an

クトイタ エアッカイ

ku=toyta easkay

ウンマ クエイワンケ エアッカイ オウンノ

umma ku=eiwanke easkay ounno

いろいろ

「怠けてはいけません、

怠けるのは恐ろしいのですよ

嘘をついても恐ろしいのですよ。

何か尋ねられたら

知っていることだったら

答えなさい。

わからないことは

でたらめに言ってはいけません」

と叔父も

祖母も言いながら

私は育てられました。

そのころ叔父は

男の雇い人を使っていて

畑を耕していました。

私が耕すことができ

馬を扱うことができるようになってから

「ヤトイカ ヤトイ	
"yatoy ka yatoy	「雇い人も、雇い人を
アンタノンタリコンノ	
an… an=tanontari konno	頼むと
ポロ イチェン アイサンケクッ	
poro icen an=sanke kus	沢山お金を払うことになるから
テウンノ エトイタナンコロ」	
te unno e=toyta nankor”	これからはお前が耕すのだ」
アリ ハワッカネ	
ari haw' as kane u…	と言われて
にとろびきの きかい、アリ トイタ	
にとろびきの きかい、ari toyta …	2頭引きの機械で耕す…
トイ アンクラ オッタ クエッコンノ	
toy ankura or ta ku=ek konno	畔に来ると
きかい クホソッ	
きかい ku=hosos ??	機械を私は引っ繰り返してしまい
ウンマウタラ ウテレケレコンノ	
umma utar uterkere konno	馬たちが走り回ると
きかい トゥラ	
きかい tura	機械と一緒に
アエンニンパカネ アン シッキ	
a=en=ninpa kane an sirki	私は引っ張られるようにしていました。
カネ アン…	
kane an …	そうやって…

は、

(時間が…) <sup>4)</sup>

あそうか、ははは、イコベッカ ikopepka 言ったらもう止らんの、小さいときの苦勞。

で今は、オンネフチ onne huci (年老いた祖母) やボナチャポ pon acapo (叔父) に言われたとおり、

クボニワノ

ku=pon hi wano

フチ イヌクリ オウンノ

huci inukuri ounno

チッアンコンノ クアッカシ

cis=an konno ku=apkas

カムイノミアンコンノ アエントゥラ

kamuynomi=an konno a=en=tura

ボン アチャポ エントゥラ

pon acapo en=tura

「ネッネヤッカ

"nep neyakka

ちいさいとき アンヌカルワ

ちいさいとき an=nukar wa

アネヤイコシラムスイパッ ネナ

an=eyaykosiramusuipa ne na

イテッケ イオイラノ

itekke ioyra no

ネッネヤッカ エヌカッ

nep neyakka e=nukar

ピリカノ エヌカンナンコロ」

pirka no e=nukar nankor"

アリ ポナチャポ イェカネ

ari pon acapo ye kane

アエントゥラ

a=en=tura

トゥイマ トゥイマ チシアニケカ

tuyma tuyma cis=an hikeka

フチ カワリネ アエントゥラ

huci kawarine a=en=tura

カネ アン シリキ アン

kane an sirki an

タネ クポロ

tane ku=poro

私が小さいときから

祖母の体が不自由になってからは

不幸があれば私が出て歩き

カムイノミをすれば私が連れられ

叔父が私を連れ歩きました。

「何でも

小さいとき見て

よく考えるものなのだぞ

忘れずに

何でも見て

よく見ておくのだよ」

と叔父さんが言いながら

私は連れられていました。

遠くに遠くに不幸があっても

祖母の代理に連れられて

いたのです。

もう私は大きくなって

ポナチャポ ラポキケアナッ

pon acapo rapokike anak

イクカ ソモ キッ ネクス

iku ka somo ki p ne kus

トイ オロワ ホシッバアッコンノ

toy or wa hosippa=as konno

ウンマ クイベレランケ

umma ku=ipere ranke

クホシビ クッキコンノ

ku=hosipi kuski konno

ウサユカラ ウサカムイユカラ

usa yukar usa kamuyyukar

ウサウエベケレ

usa uwepeker

エネチャココクス イェコンノ

en=ecakoko kus ye konno

アッパケタアナッ クエトランネワ

atpake ta anak ku=etoranne wa

クキラランケ

kue… ku=kira ranke

アエンコサカヨカラ

a=en=kosakayokar

アチャボウタラ フチウタラ

acapo utar huci utar

イエイ コラチ

ye hi koraci

タッ ワカイモノウタラ クミッポウタラ

tap wakaymono utar ku=mitpo utar

ウエカルバ

uekarpa

「テエタ オルッペ おせてくれ」

"teeta oruspe おせてくれ"

アリ ハワッコンノ

ari haw' as konno

叔父はそのときは

酒を飲みもしなかったので、

畑から私たちが帰ってくると

馬に飼葉をつけては

私が帰ろうとすると

ユカラヤカムイユカラヤ

ウウエベケレヤ

私に教えようと言いました。すると

最初は私はそれを嫌がって

逃げては

怒られていました。

叔父たちや祖母たちの

言うとおりに

こんな若いものたち、孫たちが

集まり

「昔の話を教えてくれ」

と言われると

「イテッケ スンケノ	
"itekke sunke no	「嘘をつかずに
フチ イェイ コラチ	
huci ye hi koraci	婆ちゃんの言うとおり
エチヤイコシラムスイェ	
eci=yaykosiramsuye	お前たちは考えて
あたまの なかに かいておけ」	
あたまの なかに かいておけ”	頭のなかに書いておけ」
アリ クハウキカネ	
ari ku=hawki kane	と私は言いながら
バイェカ…	
payeka …	行き交って…
テエタ フチ アチャポウタラ	
teeta huci acapo utar	かつて祖母や叔父たちが
イエ イタッ	
ye itak	言った言葉を
エンコウウエペケンヌクス	
en=kouwepekennu kus	私に聞かれるので
ケット アンコンノ	
kes to an konno	毎日
アエンコウタサコンノ	
a=en=koutasa konno	入れ替わり私のところに来ると
「タア コラチ ネナ	
"taa koraci ne na	「このとおりなのだから
イテッケ イオイラノ	
itekke ioyra no	忘れずに
イテッケ スンケヤン スンケアンコンノ	
itekke sunke yan sunke=an konno	嘘をつかないようにしなさい、嘘をつく
カムイ コスンケ アイヌ コスンケ	
kamuy kosunke aynu kosunke	神様に嘘をつき人間に嘘をつくのは
イシトマアンナ」	
isitoma=an na”	恐ろしいのだよ」
アリ クハウキカネ…	
ari ku=hawki kane …	と私は言いながら…



クイエカネ クアン ルウェ ネワ	
ku=ye kane ku=an ruwe ne wa	私は言っているのですして
クシツヌワ クアン	
? ku=siknu wa ku=an	私が生きていて
クイタッイタッ エアッカイワ	
ku=itak'itak ?? easkay wa	私が話ができ
クアン ラボッアナッ	
ku=an rapok anak	いるうちは
テエタ フチウタヲ アチャボウタヲ	
teeta huci utar acapo utar	昔の祖母たちや叔父たちが
エネ イキイ	
ene iki hi	したことを
アエンコウウエベケンヌコンノ	
a=en=kouwepekennu konno	尋ねられれば
クイエクニ クラムカネ	
ku=ye kuni ku=ramu kane	言いましょうと思って
クアン ルウェ ネ	
ku=an ruwe ne.	いるのです。
ク…	
ku…	私は…

ふふふ。<sup>5)</sup>

(横路：やあどうもありがとうございました。あの、私も実はもう初めてです。アイヌ語でこうやってねえ、いろんなお話、聞いたってのは。もうたいへん感激いたしましたけれども、)

#### 注

- 1) 古原 (1991、1992) によれば、祖母ソレウテ (1842~1916) 祖父サンケメキ (1842~1908)
- 2) hucienu、ekasienuの聞き取りと解釈は織田 (1991、若月亨、藤村久和訳註) を参考にした。
- 3) 古原 (1991) によれば、イタクラッチ (1885~1957)
- 4) ここで、持ち時間がもうないということを伝えられている。
- 5) ここで、発言を打ち切るよう指示されている。

#### 参考文献

浅井 亨 (1969) : 「アイヌ語の文法 —アイヌ語石狩方言文法の概略—」、アイヌ文化保存対策協議会 (編) 『アイヌ民族誌』、第一法規出版、pp. 771—800.

小川 正人 (1997) : 『近代アイヌ教育制度史研究』、北海道大学図書出版会。

織田ステノ (語り) 若月亨、藤村久和 (訳註) (1989) : 「III静内町での暮らし」、『アイヌの暮らしと言葉1』北海道教育委員会、pp. 167—267。

————— (1991) : 「IV静内町での暮らし」、『アイヌの暮らしと言葉2』北海道教育委員会、pp. 91—172。

織田 ステ (述) 志賀雪湖 (解題) (1992) : 「テエタ コラチーむかしどおりに一」、『アイヌ文化』17 : 26—38。

古原 敏弘 (1991) : 「織田ステノの伝承 (I)」、静内町教育委員会 (編) 『静内地方の伝承 (I) —織田ステノの口承文芸(1)—』、pp. 1—4。

————— (1992) : 「織田ステノの伝承(II)」、静内町教育委員会 (編) 『静内地方の伝承(II)—織田ステノの口承文芸(2)—』、pp. 1—4。

静内町教育委員会 (1993) : 『静内地方の伝承III—織田ステノの口承文芸(3)—』

————— (1994) : 『静内地方の伝承IV—織田ステノの口承文芸(4)—』

————— (1995) : 『静内地方の伝承V—織田ステノの口承文芸(5)—』

静内町史編さん委員会 (編) (1975) : 『静内町史』、静内町。

田村すず子 (1970) : 「アイヌ語石狩方言における人称接辞の主格・目的格接合」、『言語の科学』1 : 9—30。

知里真志保 (1948) : 『アイヌの歌謡 第一集』日本放送協会 (参照ページ数は『知里真志保著作集2』、平凡社による)。